

三つの事例にみる役割・機能

統括コーディネーター※6は、地域コーディネーターの育成、地域資源の効果的な活用、地域住民の地域学校協働活動の理解の促進などに取り組んでいます。

事例 町田市 **育てる～地域コーディネーターの育成と交流**

主な役割 学校支援ボランティアコーディネーター（以下「VC」という。）の育成については、学校支援センターのゼネラルボランティアコーディネーター（以下「GVC」という。）3名が研修の講師を務め、VCミーティングや地区ミーティングに参加し、課題解決のためのアドバイスや自立した活動を促すための支援などを通じて、初心者のVCでも活動しやすい環境を整えています。

平成29年度、全校に校務分掌として地域連携担当教員を位置付けました。市内を10地区に分けて地区統括VCを配置し、地区内の連携強化の取組として、VC・地域連携担当教員・地域団体が参加した地区ミーティングを開催するなど、持続可能な地域学校協働活動を支える仕組みづくりと担い手の育成に取り組んでいます。



comment

【岡田 栄 ゼネラルボランティアコーディネーターの声】

VCは、基礎研修で活動への理解を深めた後、ミーティングに参加することで各学校のコーディネート活動の報告から実際の業務や課題の解決方法を学びます。大きな不安を抱えていたVCも、横のつながりが深まることで、互いの活動から刺激を受け、活動に対する自信をつけていきます。私たちGVCは、VCの皆さんをサポートしていき、情報収集や日々のコミュニケーションに努めて参ります。

取組概要

町田市教育委員会では、学校支援地域本部とVCの配置を開始した平成20年度から、学校教育部に学校支援・地域学校協働活動の総合窓口である「学校支援センター」を設置しています。センターが、VCの相談・支援・研修、ボランティア情報の収集・共有、関連団体や大学との連携など、町田市全体を視野に入れた学校支援人材の育成に取り組んでいます。

データ

平成20年度事業開始、統括（GVC）：3名（元教員（小学校校長、中学校校長）、NPO職員）、対象校数：62校、地区統括VC：6名、VC数：87名

事例 港区 **生かす～地域資源を効果的に教育活動に橋渡し**

主な役割 教育課程を熟知している元学校長が、統括コーディネーターを担ってきました。企業等による出前授業を各幼・小・中学校の授業支援として取組を展開し、実際にその授業の参観や学習指導要領に基づく助言を行っています。学校への情報提供だけでなく、こうしたきめ細やかな支援で、出前授業を、より効果的なプログラムへと発展させながら、児童・生徒の教育活動を実現しています。



comment

【小林 元子 統括コーディネーターの声】

統括コーディネーターとして、心掛けていることは、各関係者（出前授業提供団体、地域、学校、教職員、地域コーディネーター、事務局等）の皆様との信頼関係の構築です。

そのためには、学校訪問や地域コーディネーターとの連絡・相談、メールの送受信、打合せなど、コミュニケーションに関わる場や機会を捉え、丁寧な対応と支援を心掛けています。これからも、健康と笑顔に心掛け、引き続き取り組んで参ります。

取組概要

港区教育委員会では、平成26年度から、教科や総合的な学習の時間等への外部講師派遣や職場体験の活動場所紹介を主な役割として、教育委員会事務局生涯学習スポーツ振興課に地域コーディネーターを配置しています。

この取組に加え、平成29年度からは、より学校のニーズに即した活動とするため、区立幼・小・中学校に地域コーディネーターを順次配置し、地域コーディネーターからの相談や活動に対しての助言を行えるように統括コーディネーターを配置しました。

データ

平成26年度開始、統括：1名（元学校長）、対象校数：18校、コーディネーター数：地域コーディネーター39名

事例 品川区 **知らせる～地域学校協働活動の理解促進**

主な役割 コーディネーターの育成、各校・地域への理解促進、学校配置コーディネーター間の連絡・調整を主に担当しているのが、指導課付の学校地域コーディネーターの2名です。各校のコーディネーターの協力のもと、「しながわ！コミュニティ・スクールフェスタ（31年1月）」には約1,600人の来場を得るなど、学校と地域へ活動の理解を促しています。

また、学校地域コーディネーター連絡会・研修会（隔月）の開催を通して、各校のコーディネーター間の情報共有、スキルアップのための取組を企画しています。



comment

【外山 愛理 指導課付学校地域コーディネーターの声】

品川区では多くの学校で、各校に配置された学校地域コーディネーターが中心となり、自校の取組の広報誌や通信を作成し地域に配布しています。統括コーディネーターとしては、全区向けの「CS通信」の企画や区内のイベントに参加しての取組の周知、関係部署へのコミュニティ・スクールの説明等を行っています。その点で、今回のしながわ！コミュニティ・スクールフェスタの実施は、PRの良い起爆剤となりました。

取組概要

品川区教育委員会では、平成28年度から指導課に学校地域コーディネーターを配置するとともに、全小学校・中学校・義務教育学校を3か年計画で「品川コミュニティ・スクール」に指定し、学校支援地域本部の設置と学校地域コーディネーターの配置を進めてきました。全校配置の最終年度にあたる平成30年度には、地域住民に取組を広くお披露目する「しながわ！コミュニティ・スクールフェスタ～Link for the future 学校・家庭・地域で育てよう！品川の子どもたち～」を開催しました。

データ

平成28年度開始、統括：2名（元学校支援ボランティア・元教員）、対象校数：46校、コーディネーター数：50名

※6 各教育委員会により「統括コーディネーター」の呼称は、「地域コーディネーター」と同様に、「統括コーディネーター」「学校支援統括コーディネーター」等様々である。

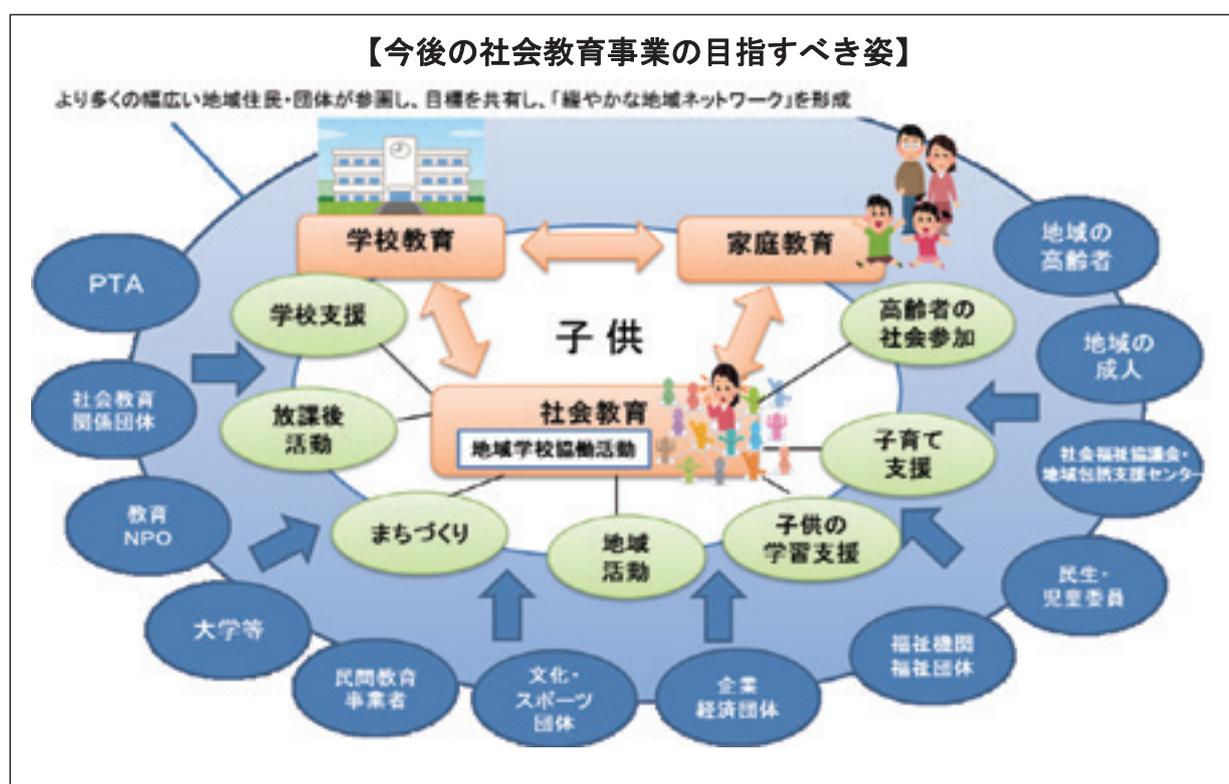
子供の成育空間としての地域コミュニティを創出していくために ～ 「地域学校協働活動」を中心に据えた今後の社会教育事業とは ～

第10期東京都生涯学習審議会（会長：今野雅裕（政策研究大学院大学特任教授））は、平成31年2月に、東京都教育委員会に対し、「『地域と学校の協働』を推進する方策について」を建議しました。

平成29年3月に社会教育法が改正され、「地域学校協働活動の推進」が教育委員会の事務として位置付けられたことを受け、一年半にわたる地域学校協働活動の推進方策についての審議成果を取りまとめ、建議として公表したものです。

今回の建議では、人口減少社会を迎え、次代を担う子供たちが健やかに成長していくためには、アクティブ・シニア（元気高齢者）をはじめとした多様な主体の参画による、子供の成育空間としての地域コミュニティを再生していく取組を進める必要があることから、「地域学校協働活動」を中心に据えた今後の社会教育事業の在り方について提案をしています。

なお、詳細につきましては、東京都教育委員会ホームページを御覧ください。



※ 文部科学省「地域全体で未来を担う子供たちの成長を支える仕組み（活動概念図）」を参考に作成